



使徒の働き 1:-28:

使徒 「うゑひます」

2017.7.28

・ルカ 24:47 「エルサレムから、あらゆる国々に証人
 ↓ 聖霊
 ・使 1:8 「エルサレム、ユダヤ、サマリヤ、地の果てに証人」
 2:38-39 悔い改め - 聖霊のバプテスマ - 35. 使者
 6:7 「エルサレムに」、^{聖霊} 証人を
 8:1 ステパノのことで迫害があり、ユダヤ、サマリヤに散らされる
 9:31 「ユダヤ、ガリラヤ、サマリヤで...」
 12:24 「主のみことばはますます盛んに到り、広まると行つた」
 16:5 「諸教会は信仰が強められ、日ごとに人数が増えり」(アンテオケ → ^{シリア、エペソ、アンテオケ} ガラテヤ地方)
 19:20 「主のみことばは到り、ますます強くなり」(マケドニア、アカヤ、パシヤ)
 19:21 「ローマに到りて」
 23:11 「ローマに到りて」
 28:23-31 「モセの律法、預言者...」

(律法、預言者の成就
 キリストの十字架、復活
 罪の赦し、悔い改め
 — 証言、証人
 — 聖霊 ← 証言、信じる者
 するに到る

19:20
 20:20
 21:20
 22:20
 23:20
 24:20
 25:20
 26:20
 27:20
 28:20

聖霊
 ↓
 キリスト
 ↓
 教会
 ↓
 諸教会
 ↓
 教会、諸教会

全世界がひとつのことばになる。

使徒行伝全体の分析をする時に、増え広がっていつているという「産めよ増えよ」みたいな感じで御霊の実である教会が、全世界に広がっていくということで、この書物全体が流れているというように見る事ができるでしょう。

ルカの最後のところで(24:47)、聖霊が降ったら「エルサレムから始まってあらゆる国々に証人となります」ということが言われ、その聖霊が降った後に(使徒1:8)、「エルサレム、ユダヤサマリヤ、地の果てまで私の証人となります」という宣言がありますので、このあとエルサレムで広まりました。これが(使徒)6章7節。それでステパノのことで迫害があり、ユダヤ、サマリヤに散らされるのですけど(8:1)、「ユダヤ、ガリラヤ、サマリヤで広まりました」が9章31節。12章24節に「主のみことばはますます広まりました」。16章5節に「諸教会は信仰が強められ日ごとに人数が増えました」。それと19章20節に「主のことばが広まり、ますます強くなりました」ということで、このユダヤ、ガリラヤ、サマリヤのあとに、地の果てまで広まっていつているというのがこの3つ(12:24、16:5、19:20)になります。アジア、アンテオケからガラテヤ地方、マケドニア、アカヤ、アジア地方ということでこのエルサレム、ユダヤ、サマリヤ地の果てまで進んでいるというのが、ひとつの要約文みたいな感じで言われているので、そこで段落を分けられるのかなというのが、ひとつの分析の仕方としてあります。

19章21節からは、「パウロはローマに行きます、ローマに行きます」と言っていますので、地の果てまで行ったものが全世界に広がっていくということが言われているので

しょう。ユダヤ人と異邦人、パウロはユダヤ人ですね。ペテロは異邦人向けに洗礼をしています。それで両方合わさったキリスト人の教会が始まって、諸教会となっていくます。マケドニア、アカヤ、アジアは教会が増えていく感じですね。最初のエルサレムの時は教会が単数形なのですね。始めてアンテオケの教会で複数に分かれました。相変わらずアンテオケからどこどこに行ってアンテオケに戻る、アンテオケから旅行に行ってまた戻るという感じなのですが、アンテオケの教会からたくさんの教会群、複数形が増えていっているということです。その教会がさらに全世界に行くよということが、このローマで言われてるのかなというのがこの「増え広まっていく」ということで見た時の概略です。